神奈川新聞　2011年12月28日（水）

全国高校ラグビー開幕

連覇誓う桐蔭学園

選手ら堂々行進

3年間の思いぶつける

第91回全国高校ラグビー大会は27日、大阪・花園ラグビー場で開幕。

試合に先立つ開会式で、神奈川から7大会連続11度目の出場となる桐蔭学園は、前回大会の優勝校（東福岡と両校優勝）として先頭で入場行進。紺色のユニホームに身を包んだ選手は笑顔で花園の地を踏みしめた。

桐蔭の初戦は30日で、春日丘（愛知）―尾道（広島）の勝者と2回戦で対戦する。

初日は1回戦8試合を行い、4年連続4度目出場の高知中央が山形中央に35―17で快勝して大会初勝利を挙げ、鹿児島工や札幌山の手（南北海道）などとともに2回戦へ進んだ。

明和県央（群馬）関商工（岐阜）東京（東京第2）光泉（滋賀）も2回戦進出。大分舞鶴は青森北に7―34で敗れ、出場した大会での連続初戦突破記録が28で止まった。

▽1回戦

札幌山の手（南北海道）29（17―0、12―0）0 和歌山工

	和歌山	札幌山
T	0	3
G	0	2
P	0	2
17前	0	1
T	0	2
G	0	1
P	0	0
12後	0	0
29計	0	29

田中、宣誓は「百点」

○…選手宣誓の大役を果たした和歌山工の田中主将は「東日本大震災があって大変な状況の中、ラグビーができる喜びをしっかり伝えたかった」とさわやかな表情で思いを口にした。

宣誓の内容は周囲にアドバイスをもらいながら練り上げたという。胸を張り堂々とやり遂げ「ゆっくり話すことを心掛けた。落ち着いてできたし、百点」と満足そうだった。

青森北34（14―0、20―7）7 大分舞鶴

	青森北	大分舞鶴
T	3	0
G	1	0
P	1	0
20前	0	1
T	1	0
G	0	0
P	0	0
14後	7	0
34計	7	1

大分舞鶴が初戦敗退

○…62回大会以来、出場を逃した65回大会を除けば、常に初戦を突破してきた大分舞鶴が、1回戦で姿を消した。青森北の圧力に押し込まれ、5トライを献上して完敗。今冬の雪辱は継続できなかったのは残念」と肩を落とした。

大分舞鶴は優勝1度、準優勝3度を誇るが、近年は部員不足に悩み、チーム内での紅白戦にも苦心するほど。メンバーには1、2年生が多く、経験不足を感じさせるミスが失点につながる場面が多かった。

高知中央35（12―17、14―5）12 山形中央

	高知	山形
T	3	2
G	3	1
P	3	0
21前	0	1
T	2	1
G	2	0
P	0	0
14後	5	0
35計	17	1

鹿児島工34（22―0、12―0）0 札幌山の手（南北海道）

	鹿児島工	札幌山の手
T	5	0
G	3	0
P	2	0
22前	0	0
T	0	0
G	0	0
P	0	0
12後	0	0
34計	0	0

東京39（26―0、12―0）0 萩商工

	東京第2	萩商工
T	6	0
G	3	0
P	2	0
26前	0	0
T	0	0
G	0	0
P	0	0
12後	0	0
39計	0	0

明和県央81（43―8、38―8）8 坂出工

	明和県央（群馬）	坂出工
T	8	1
G	6	1
P	3	0
43前	3	0
T	0	0
G	0	0
P	0	0
38後	5	0
81計	8	0

関商工26（14―12、12―24）日川

	関商工（岐阜）	日川（山梨）
T	3	2
G	2	1
P	0	0
14前	5	0
T	0	0
G	0	0
P	0	0
12後	0	0
26計	5	0

北条5（0―0、5―0）0 関商工（岐阜）

	北条（愛媛）	関商工（岐阜）
T	0	0
G	0	0
P	0	0
0前	0	0
T	0	0
G	0	0
P	0	0
5後	5	0
5計	5	0

光泉26（12―0、14後12）12 日川（山梨）

	光泉（滋賀）	日川（山梨）
T	2	1
G	1	0
P	0	0
12前	1	2
T	2	1
G	2	0
P	0	0
14後	12	0
26計	24	12

優勝旗返還で手違い

○…桐蔭と東福岡の両校による優勝旗返還で、桐蔭は主将の濱野ではなく、急きょSH浦部が旗手を務めた。

大会運営の手違いによるハプニングで「本当は違うものを返す役目だったのに、立ち位置の関係で…。恥ずかしかったです」と思わぬ展開に浦部も戸惑い気味。

濱野は「初めて両校で返還するという経験だったので、うちの部員たちもテンパっていた。次はぜひ単独で返したい」と、あらためて単独優勝に意欲を見せた。

快晴に恵まれた開会式。桐蔭の選手たちは堂々と行進。主将のCTB濱野は「初めての3列行進だったので、入念に練習し、リラックスした状態で臨めた」と話した。

その表情が一変したのは、話題が前回大会の決勝に触れた時だ。同点に追い付かれ東福岡との両校優勝という結果について、「うれしさより、先輩たちに申し訳ない気持ちでいっぱいだった」。勝ってなお非力を痛感した現在の3年生は、悔しさをこの1年間の練習にぶつけてきた。

整列後にライバル東福岡のFB藤田と濱野が言葉を交わし、「お互いに決勝まで残ろう」と励まし合ったという。単独優勝へ、あらためて決着をつけようという思いがこもった。

桐蔭は、この日行進した25人中13人が前回大会のメンバー。PR増田は「（30日の）初戦が大事。3年間の思いをぶつけたい」と意気込み、昨年メンバー入りできなかったFL小川は「花園は憧れの舞台。夢がかなった」と新鮮な気持ちを膨らませた。

午後のチーム練習は休みとなったが、副将のHO中村は「明日からリセットしていきたい」と気持ちを引き締めていた。